学校番号	109

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	『詳説日本史』（山川出版）						
副教材等	『新詳日本史』（浜島書店） 『山川　一問一答日本史』（山川出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史総合で身に着けた歴史的な見方、考え方を働かせ、古代から中世にかけて世界の中の日本という視点から日本の歴史を学ぶ。古代では日本の地理的な長所・短所を踏まえ、特に中国や朝鮮半島からどのような影響を受け、また与えたかを考える。中世では、中国の影響を受けながらも独自の体制・文化が築かれる過程を見ていく。古代・中世を通じて近世や現代につながる日本の思想や体制、文化などを幅広い視点で考察する。また、受験勉強に対応できるよう入試問題や演習なども触れていく。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【思考力、判断力、表現力等】

社会的事象の課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

【学びに向かう力、人間性等】

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	日本文化のあけぼの	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。	a: 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。また、水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけた。 b: 黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。また、小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 c: 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。また、日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	提出課題／授業態度／発表・レポート提出
	古墳とヤマト政権	①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。	a:国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。また、推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。 b: 中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	提出課題／授業態度／発表・レポート提出

			過程について多面的・多角的に考察し表現している。また、仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。 c：中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。また、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。			
	律令国家の形成	①律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ②平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 ③白鳳文化の形成過程について考察し、天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ④東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。	a：隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。また、平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目し、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。 b：天智朝からの政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。また、文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し根拠を示して表現している。そして、盛唐文化の受容を踏まえ、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。 c：中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。また、隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	提出課題／授業態度／発表・レポート提出

2学期	貴族政治の展開	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ③地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。	a：藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。また、大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。そして、地方の諸勢力の成長と影響などに着目して、律令制度の実態や地方における開発、治安の維持、荘園の発達などについて、その特色や変容を理解している。 b：摂関政治の特色について考察し、国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。また、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。 c：唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。また、国司の在り方や徴税方式の変化、武士の出現など、地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	提出課題／授業態度／発表・レポート提出
	院政と武士の躍進	①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。	a：貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 b：武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 c：中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	提出課題／授業態度／発表・レポート提出

	武家政権の成立	①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ③モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ④庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。	a：源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。また、承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。そして、宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。 b：幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。また、鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c：鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。また、公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	提出課題／授業態度／発表・レポート提出

3学期	武家社会の成長	①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、琉球など日本の周辺地域、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ③応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。	a: 鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。また、諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭して村などの自治的な単位が成立したことを理解している。そして、守護大名と戦国大名の権力の相違点などについて諸資料から情報を読み取り、戦国時代の大名による領国経営の特徴を理解している。 b: 南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。また、自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。そして、戦国大名による富国強兵策に着目して領国統治の特色を諸資料から考察し、堺や博多など都市の発展にみられる戦国時代の社会の多様性を表現している。 c: 武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。また、室町時代に成立した村の自治的な運営が現代社会における自治とどのように異なるかなど、自身との関わりにおいて課題を主体的に追究しようとしている。そして、15 世紀から 16 世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価／発表・レポート提出	提出課題／授業態度／発表・レポート提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度